

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ⑥その他

##### 《理工農系》

#### ●大阪大学工学研究科生命先端工学専攻

##### 「国際連携大学院 FD ネットワークプログラム」の事例

###### (具体的に何を実施したのか)

海外のトップクラスの大学院から著名教授を招聘し、博士前期課程の講義を開講した。招聘教授による授業については、Power Point と連動したビデオをホームページ上で公開し、学内のどこからでもこの授業を見ることができるようにした。また、生命先端工学専攻では、博士前期後期課程5年一貫コースの英語コースを設置し、すべて英語のカリキュラムで教育・研究を行なっているが、英語コースで開講している科目を一般コース（物質生命工学コースと生物工学コース）の日本人学生（博士前期課程）にも開講し、留学生と一緒に受講させた。さらに、学生主体の国際シンポジウムを開催するとともに、学生の海外インターンシップを実施した。

###### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

海外から招聘した著名教授による講義のホームページ上での公開に関しては、著作権の問題があったので、ファイルにパスワードを付けて公開した。英語コース向けに開講している講義科目の一般コースへの開講に関しては、毎回講義終了時に小テストを実施するなどして日本人学生の理解度をチェックし、英語による講義に全くついていけないという事態にならないように工夫した。学生主体のシンポジウムに関しては、経理を除いて、企画、運営、プログラムの作成、進行、懇親会まですべて学生が主体的に行えるように注意を払った。学生の海外インターンシップに関しては、できるだけ多くの学生が海外の大学、研究所に短期留学した経験をもつことができるように配慮した。

###### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

多数の外国人教授による大学院博士前期課程における講義を実施することにより、大学院学生の英語理解能力が顕著に向上した。英語コースの設置ならびに講義科目の英語化により、日本人大学院生の国際化に対する意識が大きく向上した。学生主体の国際シンポジウムを開催することにより学生に国際会議の企画・運営能力をつけさせることができた。国際共同研究で実績のある海外の大学に大学院学生を派遣したり、海外から共同研究のために大学院学生を受入れたりと

により、大学院学生の国際的視野が拡大し、国際レベルの研究能力が飛躍的に向上した。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

#### ①FD体制の整備充実

##### 《理工農系》

#### ●大阪大学工学研究科生命先端工学専攻

##### 「国際連携大学院FDネットワークプログラム」の事例

###### (具体的に何を実施したのか)

教員の海外FD研修を、米国カリフォルニア州立大学フルトン校(California State University Fullerton, CSUF)で実施した。研修期間は2週間で、毎回5-6名の教員が参加した。計5回実施し、生命先端工学専攻の教授7名、准教授8名、助教12名の計27名が本研修に参加した。研修は主として、プレゼンテーション技術やファカルティ・ディベロップメント(FD)に関する講義の受講、学部および大学院の授業参観、およびCSUFの学生への授業の実施、から成る。最終的に阪大教員はメンター教授のクラスで40分から1時間程度の授業を行い、研修の評価を受けた。

###### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

海外FD研修をどこで行うのが良いのかまず検討した。米国には、FD研修プログラムの充実している大学は数多くあるが、その中からCSUFを研修先として選んだ理由は、米国西海岸にあり日本に比較的近いこと、研修費用や滞在費が他の大学より安く、限られた予算でより多くの教員を派遣できること、奈良先端大学教員受入の実績を有すること、などである。次に、研究分野が似ているCSUFの教員を研修の指導教授として選んでもらうことを目的として、CSUFの職員による派遣教員に対する電話インタビューを行った。また、指導教授とメールで研修内容について打ち合わせを行い、研修が効率よく実施されるように工夫した。

###### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

教員の海外FD研修の効果を評価するために、英語コースの留学生へのアンケート調査を行った。評価項目は、コース全体、講義全般、講義数、教員の英語レベル、特別課題演習、教員の研究レベル、キャリアとしての重要性、の7項目である、その結果、5年前と比較するといずれの項目においても格段に高い評価が得られたので、海外FD研修により教員の英語による授業方法、指導方法は大きく改善されたと考えられる。また、すべての教員が、海外FD研修は大変有意義で、研修で学んだことは日本語で行われる日本人学生への講義にも生かせると考えているので、教員の日本語による授業方法、指導方法も大きく改善されたと考えら

れる。